

長野県総合5か年計画  
**しあわせ信州創造プラン2.0**  
～学びと自治の力で拓く新時代～

**2018年度 — 2022年度**  
(平成30年度 — 平成34年度)

**地域重点政策**  
**【木曾地域計画】**

木曾地域振興局  
木曾保健福祉事務所  
木曾農業改良普及センター  
木曾建設事務所

# 確かな暮らしが営まれる美しい信州 ～学びと自治の力で拓く新時代～

## 「確かな暮らし」

明日への希望を持って日々の生活を送ることができ、万一の場合には温かな支援を受けることができるという安心があること

+

## 「美しい」

・先人によって守り育てられてきた豊かな自然や農山村の原風景・街並みの美しさ  
地域に息づく郷土への誇りや絆を大切にする心  
子供から大人まで未来に向かってひたむきに努力している姿

+

## 「学びと自治の力」

地域に根付く学びの風土と自立の県民性を未来に向けて活かす

## 「政策推進の基本方針」

### 基本目標

クリエイティブな  
社会をつくる

産業の  
生産性が高い県  
づくり

人をひきつける  
快適な  
県づくり

安心して希望あふれる  
社会をつくる

いのちを守り  
育む県づくり

誰にでも  
居場所と出番が  
ある県づくり

学びの県づくり

自治の力みなぎる県づくり

基本目標の実現に向け  
「学びと自治の力」が  
推進エンジンとなって政策を展開

## しあわせ信州創造プラン2.0の特色

特色  
1

「学びと自治の力」を推進  
エンジンに政策を展開

- ・地域に根付く学びの風土と自主自立の県民性を再認識し、その力を最限に発揮

特色  
2

中長期的視点で  
6つのチャレンジプロジェクト

- ・敢えて難しい課題にチャレンジ（政策の方向性）
- ・実行しながら考え、深化させていく成長型プロジェクト

特色  
3

これまで以上に地域重視の観点で  
「地域計画」を充実

特色  
4

SDGs（持続可能な  
開発目標）を意識

- ・経済、社会、環境の3側面の課題に統合的に取り組み、誰一人取り残されない社会を実現

特色  
5

人口減少社会への対応を重視

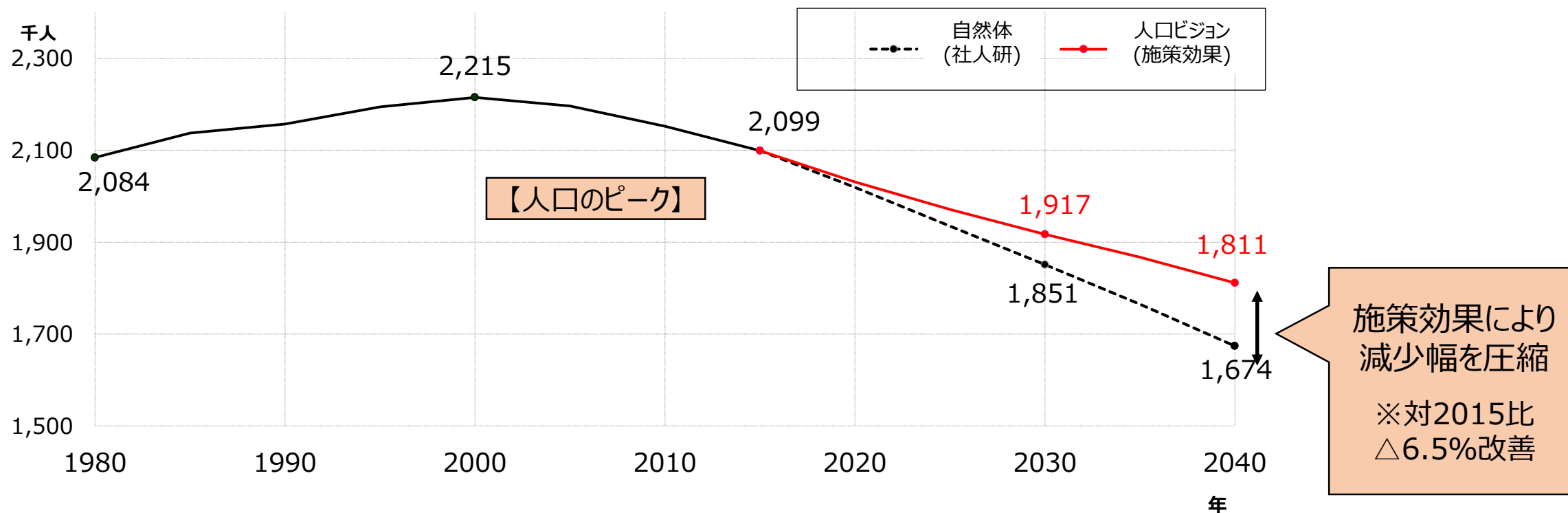
- ・「信州創生戦略」の政策を継承

特色  
6

「学ぶ県組織」へ転換

# 長野県の人口

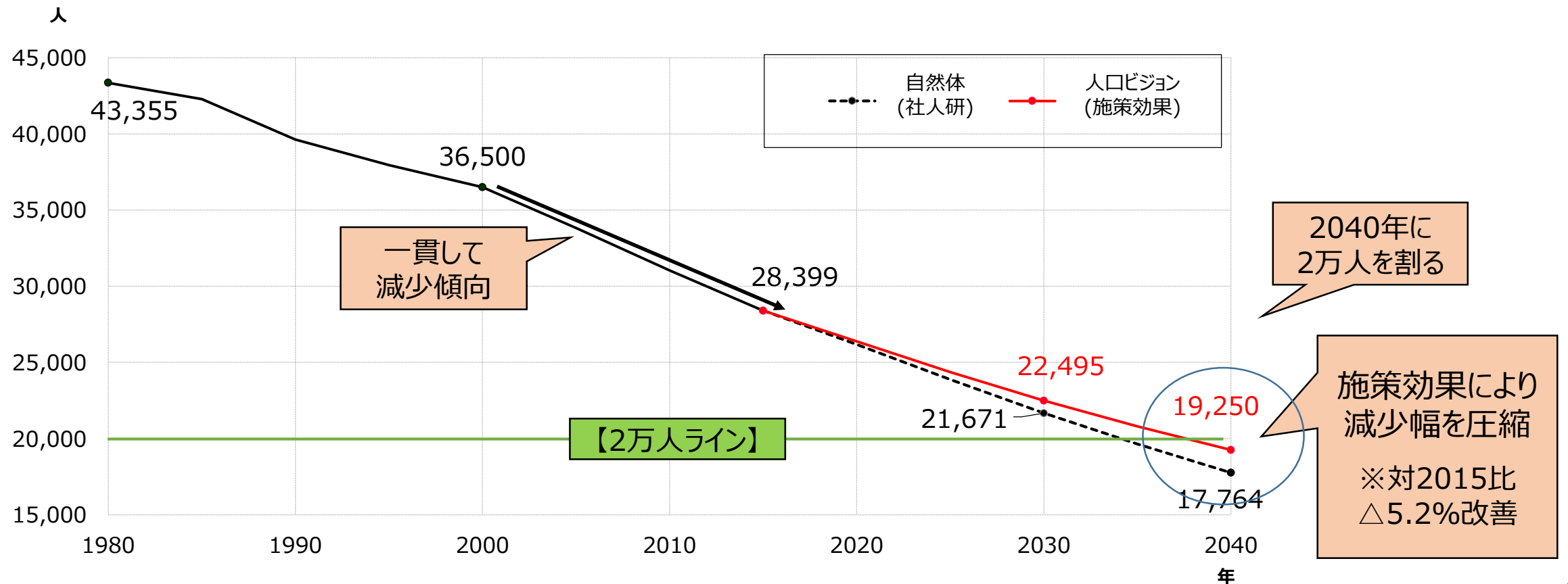
- 総人口は、2000年を頂点に減少傾向。
- 人口減少に歯止めをかける政策により、将来、合計特殊出生率が回復し、社会増減がゼロになった場合(赤線)でも、将来人口は減少傾向が続く見込み。



出典：2015年までは国勢調査、その後は長野県企画振興部推計  
「人口ビジョン」は、国、都道府県、市町村が人口減少に歯止めをかける政策を講じた場合の推計  
「自然体」は、「日本の地域別将来推計人口 平成25年3月」（国立社会保障・人口問題研究所）を基に現状の継続を前提として推計

# 木曽地域の人口

- 木曽地域の人口は急速な減少傾向にある。
- 各町村が人口ビジョンに基づき対策を行うことで、減少幅は緩やかになるが(赤線)それでも2040年には2万人を切る見込み。

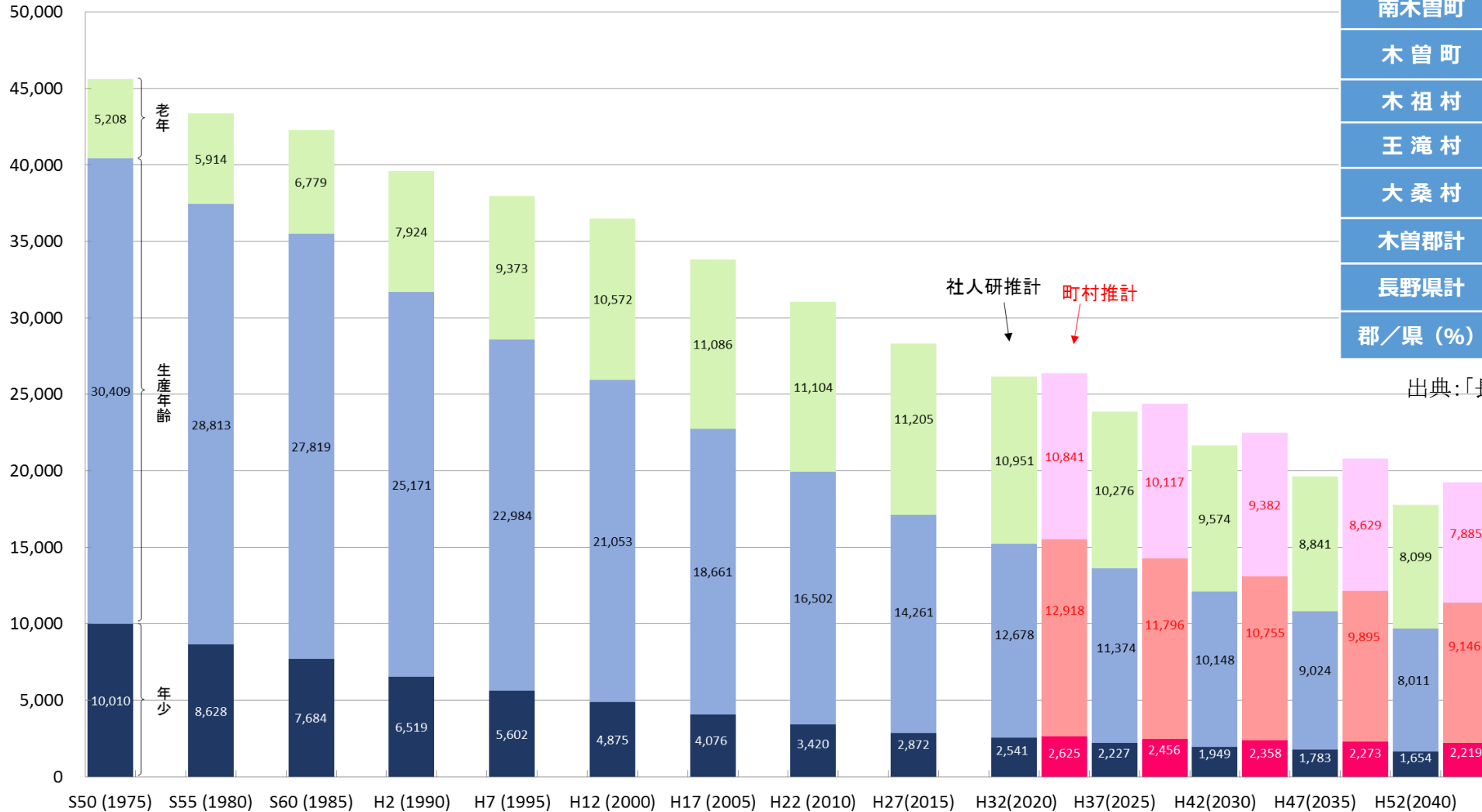


# 木曽地域の人口

【高齢化率】  
(65歳以上の人口比率)

区分	高齢化率 (%)
上松町	40.3
南木曽町	41.9
木曽町	40.1
木祖村	42.0
王滝村	40.6
大桑村	41.9
木曽郡計	40.9
長野県計	31.1
郡/県 (%)	(郡-県) + 9.8ポイント

【人口推移グラフ】

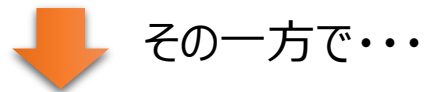


出典:「長野県毎月人口異動調査」  
(H29.10.1現在)

# 木曽地域の特徴と課題

## <特長>

- 豊かな自然に恵まれた地域
  - ・御嶽山、木曽駒ヶ岳や高原、渓谷、美しい星空 など
- 中京圏とのアクセスが良好
  - ・国道19号とJRが南北に縦断（中京圏）
  - ・国道361号や256号が東西を横断（南信地域や高山市など）
- 木曽川下流域の中京圏との上下流交流が盛ん
- 豊かな森林、林業・木工関係の学校等が集積
- 優れた観光資源が豊富
  - ・「日本遺産」に認定された旧中山道や宿場
  - ・山岳、渓谷などの自然美
  - ・伝統工芸、郷土食 など



その一方で・・・

## <課題>

- 人口減少が著しい
  - ・H22国調 31,042人→H27国調28,399人（△8.5%）
  - ・今後、町村の推計でも2040年には2万人を下回る見込み
- 自然災害のリスクが大きい
  - ・活火山である御嶽山麓
  - ・山間・谷あいの土石流災害 など

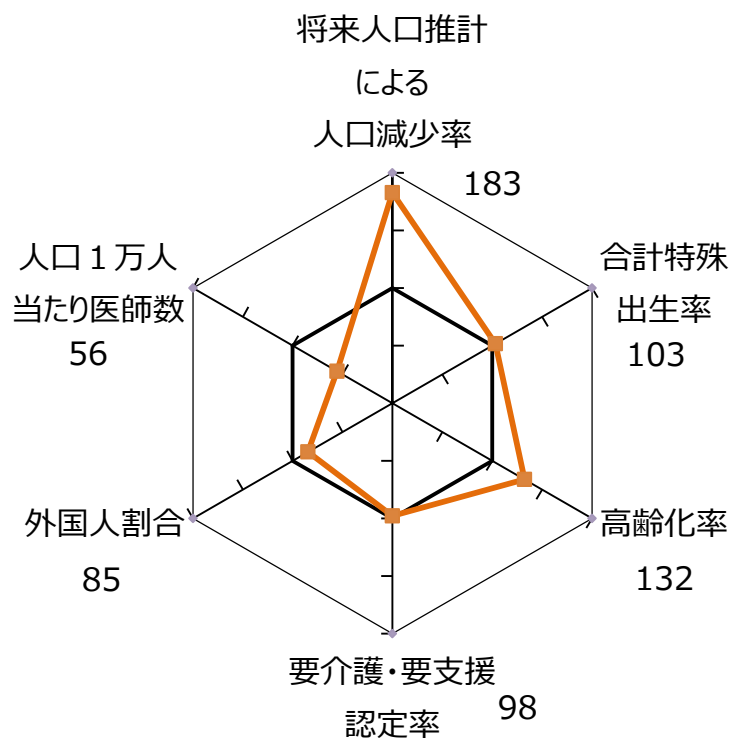
# 木曽地域のようす



# 木曾地域の関連指標

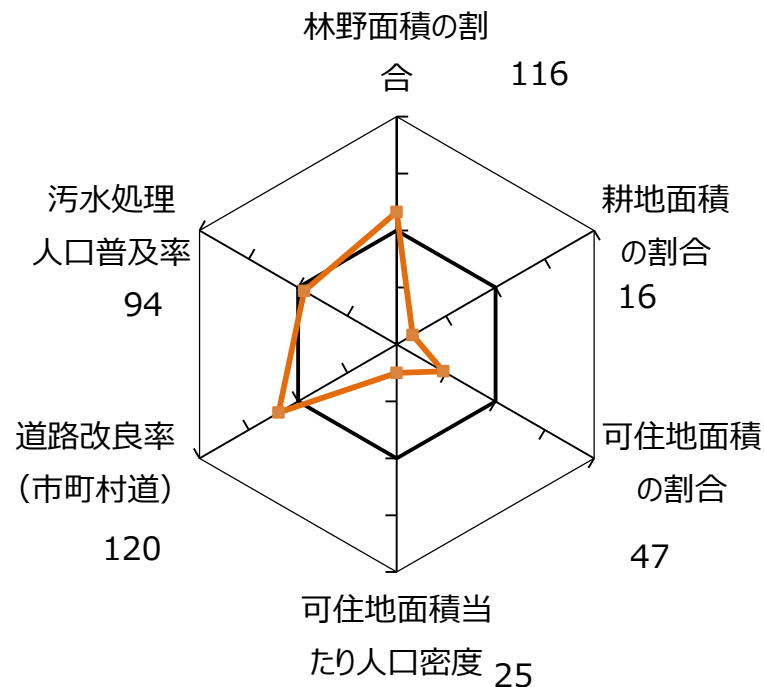
## 人口指標

- ・人口1万人当たり医師数が県平均の約半分と少ない。



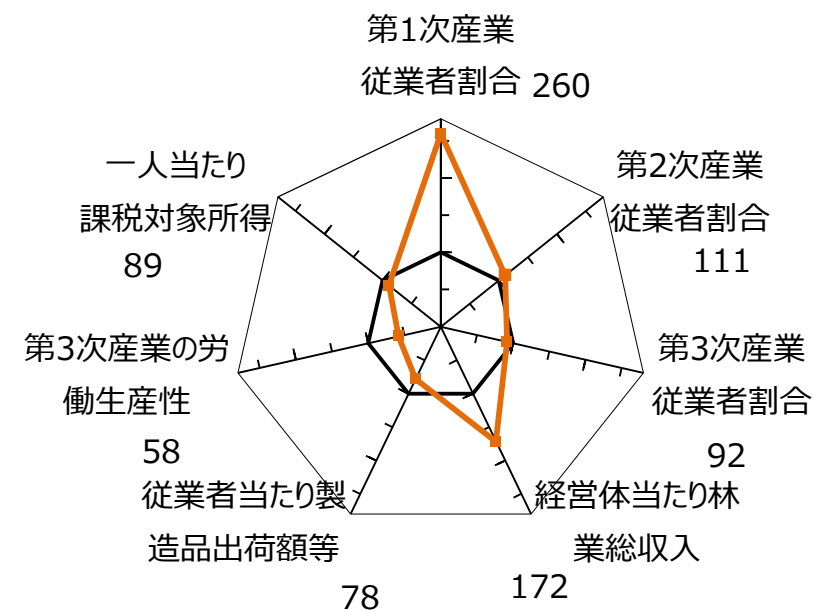
## 地勢

- ・急峻な地形のため、耕地面積や可住地面積の割合が小さい。



## 産業

- ・第1次産業従業者の割合が高い。
- ・林業総収入が大きい。
- ・第3次産業の労働生産性は低い。





# 木曽地域のめざす姿



人口減少下でも「木曽らしい」上質な生活が安全に営め、  
学び、自己実現ができる地域であり続けるために



【上松町】



【南木曽町】



【木曽町】



【木祖村】



【王滝村】



【大桑村】

御嶽山が気高くも優しく人々を迎え、木曽川の清流は安らぎを与えている。  
圧倒するばかりの山々の緑は、地域に安全と豊かさをもたらしている。  
歴史を感じさせる街道のたたずまいに、住民や旅人が優しい眼差しをかわして行き交い、  
子どもたちが元気な挨拶をして通り過ぎる。  
以前にも増して、この地域の景観や雰囲気は、国内外の人々の共感を得るものとなっているようだ。  
ここでは、自分が自分でいられる。  
夜には息をのむ星々が天空に煌めく山と谷の集落に、穏やかな時が流れている。

- 自然、景観、文化、人のつながりや治安の良さなど、木曽の強味「木曽らしさ」が引き継がれている。
- 御嶽山の防災対策が進み、火山の特徴を理解しながら多くの登山者が訪れている。
- 木曽川の上下流交流が地域に活力を生んでいる。
- 住んでよし、訪れてよしの観光地域づくりが進んでいる。
- 林業、木材加工業が復興している。また、その人材育成のメッカとなっている。
- 製造業、サービス業が確かな雇用で地域を経済させている。
- 農業後継者が育ち、特色を生かした農業を展開している。
- 「木曽らしさ」に惹かれた人たちが移住し、自己実現の場を得ている。
- 様々な人たちが地域づくりに積極的にかかわっている。
- 子供たちが、のびのびと育ち、地域を知り、将来の選択肢の中に地域で暮らす自分を描くことができる。
- 夢の実現に必要な基本的な力を地域の学校で身に着けることができる
- 地域を支える高度な専門教育を身に着けることができる。
- 医療、教育、地域交通などの生活・経済活動基盤が維持されている。



# 「木曽地域重点政策」

## そのためには、… 4つの「地域重点政策」

### 【地域重点政策 1】

「木曽らしさ」を活かした  
地域づくり

①日本の宝である「木曽の森林」や林業・木工関係教育機関等の集積を活かす



②日本遺産に認定された、地域の「観光資源」を活かす



### 【地域重点政策 2】

「御嶽山」の安全  
対策の推進と土  
砂災害の防止等

時間経過による風化  
ではなく、着実に前進  
していく



### 【地域重点政策 3】

人口減少下にお  
ける人材の  
確保

「木曽らしさ」の再  
認識と発信により  
流出を防ぎ、移住・  
定住、交流人口を  
拡大する



### 【地域重点政策 4】

生活基盤・経  
済活動基盤の  
確保

県・市町村・関係  
機関が連携し、  
暮らしを支える基  
盤を維持する



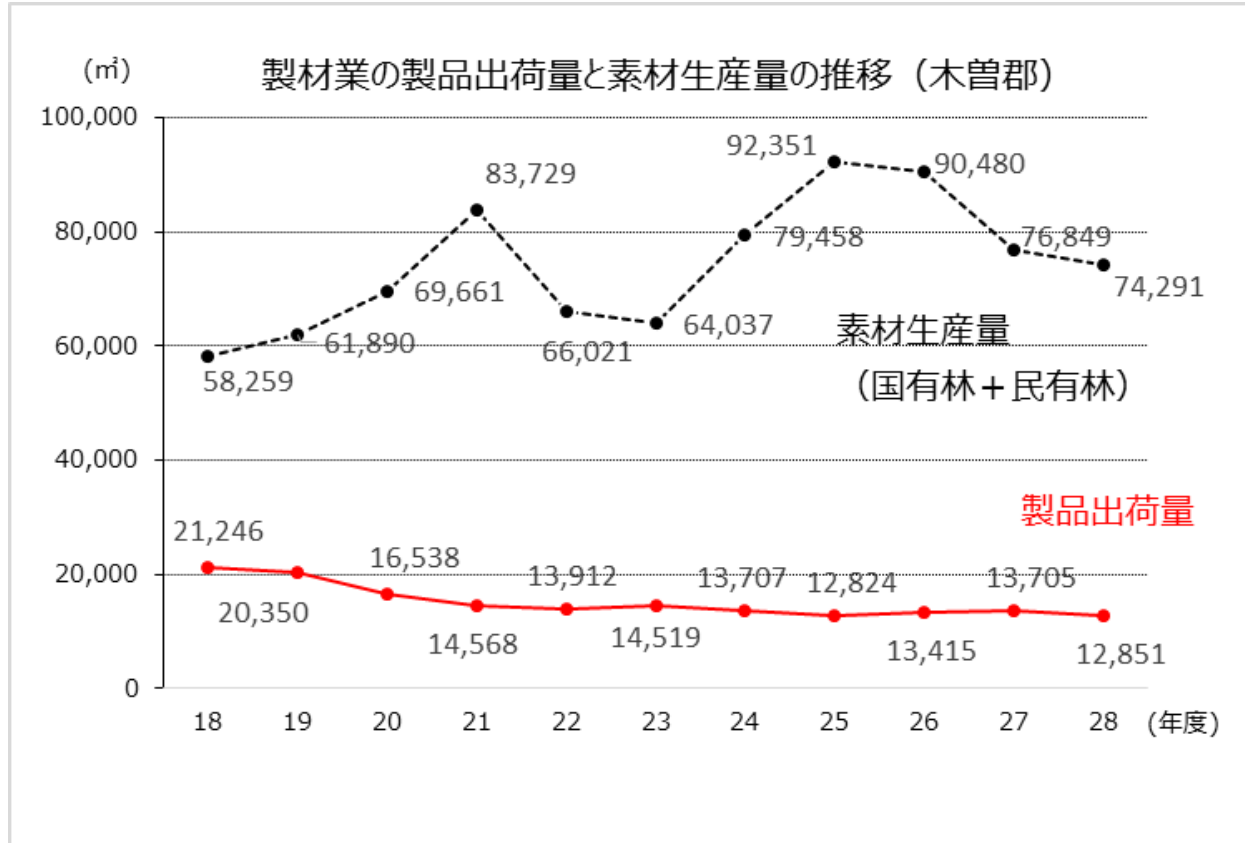
効果を高め、成果を得るための連携推進

○住民・行政機関・多様な主体の連携

○木曽川上下流など他の地域との連携

○政策間の連携

## 状況

木曽地域の林業・木材加工業  
《現状と課題》

## 【強み】

- 豊富な森林資源  
郡面積の約93%がヒノキ、カラマツを中心とした森林  
(cf.県全体78%)
- 伝統的木工技術  
「木工芸品」「南木曽ろくろ細工」「お六櫛」「曲物」  
(日本遺産)等
- 「学びの場」の集積  
林業大学校、上松技術専門校、木曽青峰高校  
(森林環境科、インテリア科)

## 【課題】

- ポスト「(天然)木曽檜」のブランド化  
⇒ 人工林ヒノキ、カラマツ
- 林業・木材加工業の高付加価値化が必要  
⇒ 地域での付加価値アップへ
- 時代に合った林業関連人材の育成、  
教育・育成機関卒業生の定住促進
- 木工製品（伝統的工芸品を含む）製造・  
販売の活性化と、技術継承を含めた  
後継者の育成



### <現状と課題>

- ・天然の木曾ヒノキが希少となる一方、高品質な人工林の木曾ヒノキやカラマツの蓄材が進んでいます。
- ・森を守り、育て、利用する「学びの場」が集積しています。  
(林業大学校、上松技術専門校、木曾青峰高校)
- ・林業人材の確保が求められています。  
(上記学校を卒業後、地元就業する者は1～2割)  
また、伝統工芸技術も継承に課題が生じつつあります。
- ・製材業の製品出荷量は低減傾向。  
事業の高度化・生産性の向上が求められています。

林業・木工加工業  
の高付加  
価値化

林業・木工  
関係人材  
育成の拠  
点形成

### <取組の内容>

- 間伐材の製材加工など、地域内で「付加価値」を高める体制づくりに取り組みます。
- 人工林木曾ヒノキや「信州プレミアムカラマツ」のブランド化を進めます。
- 森林整備等にもつなげる木質バイオマス燃料の活用を促進します。
- 伝統工芸技術等を活かした新製品の開発とPR、流通体制の整備を支援します。
- 森林セラピーなどを取り入れた健康と観光の連携を図ります。
- 全国でトップクラスの林業・木工関係の人材育成拠点化を目指します。
- 信州大学等の協力を得ながら、日本最高レベルの専門教育や技術訓練を提供します。
- 卒業生の地域就業と定住を目指します。

達成  
目標

指標名	現状	目標	備考
製材業の製品出荷量 長野県木材統計（林務部調）	13,705m <sup>3</sup> (2015年)	15,075m <sup>3</sup> (2021年)	丸太を製材（加工）した製品の出荷量（林業・木材加工業の高付加価値化に関する指標） [現状の10%増加を目標に設定]

## 《チャレンジプロジェクト》

# 美しく豊かな森と文化の再生・創造プロジェクト

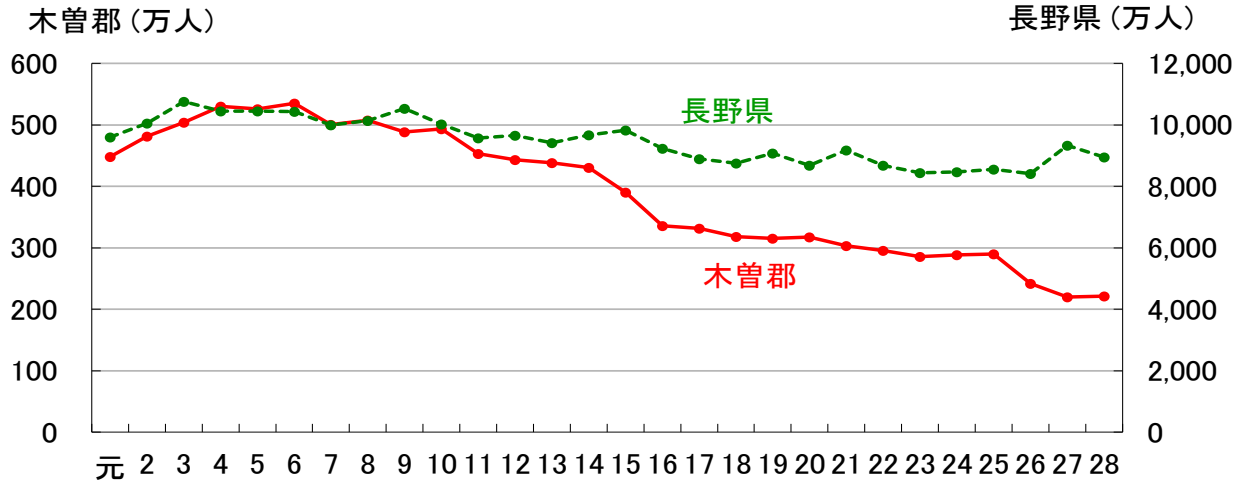
～ 森林の価値を見出し、その恵みを享受する地域  
社会をつくる～

- 木や森と人とのつながりの再生・創造
- 森林などの地域資源で自立した社会の構築
- 木や森を活かす人づくり

関連教育機関の連携などを通じて、全国から林業を学びたい人が集う、日本をリードする人材教育拠点「フォレストバレー」の形成に取り組みます。

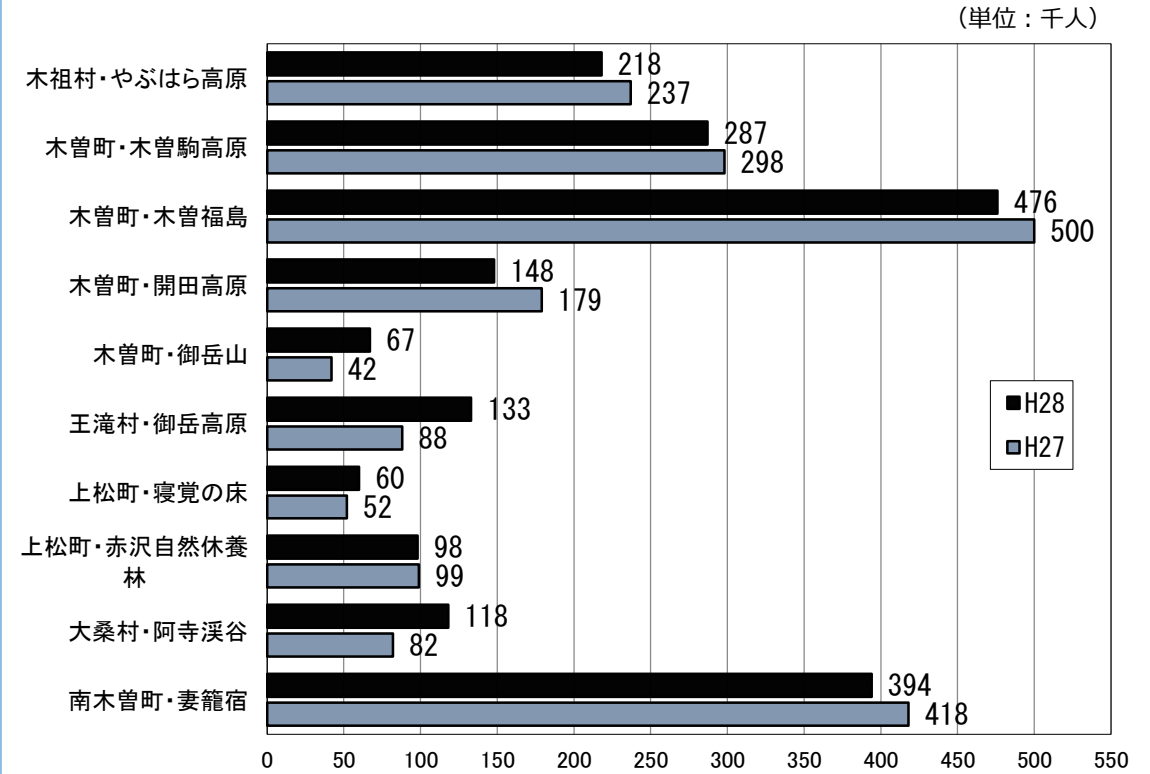
(第6編 チャレンジプロジェクトより抜粋)

観光地利用者数の推移



(出典) 長野県観光地利用者統計

主要観光地の利用者数

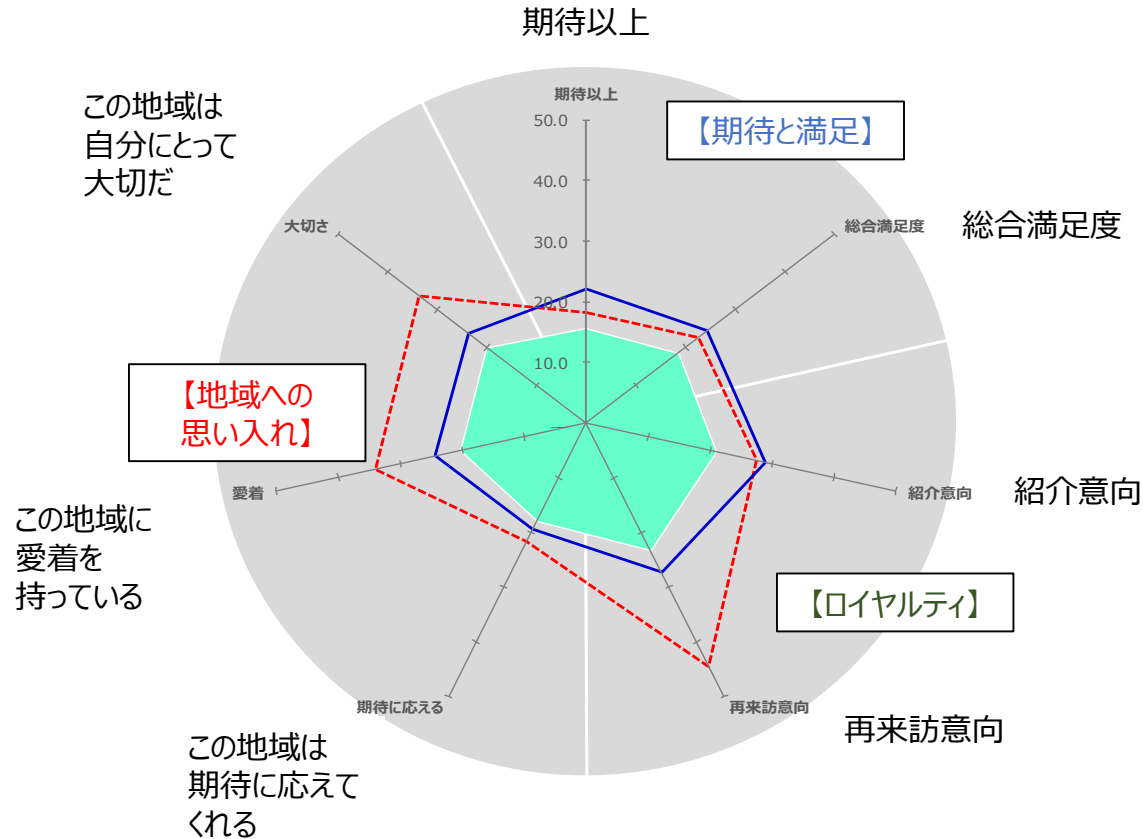


(出典) 長野県木曽地域振興局商工観光課

来訪者の満足度 《国内旅行者》

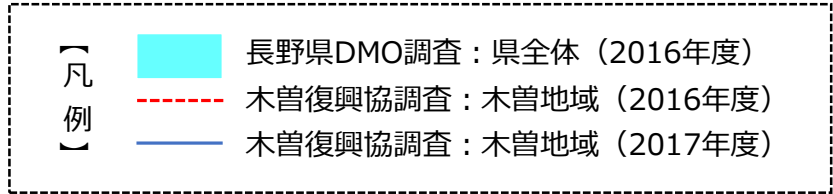
- 〔凡例〕
- 長野県DMO調査：県全体（2016年度）
  - - - 木曽復興協調査：木曽地域（2016年度）
  - 木曽復興協調査：木曽地域（2017年度）

（出典）2017年度木曽エリア旅行者アンケート調査【国内旅行者】  
 総合指標（「大変そう思う」「大変満足」の割合）全体／各単一回答

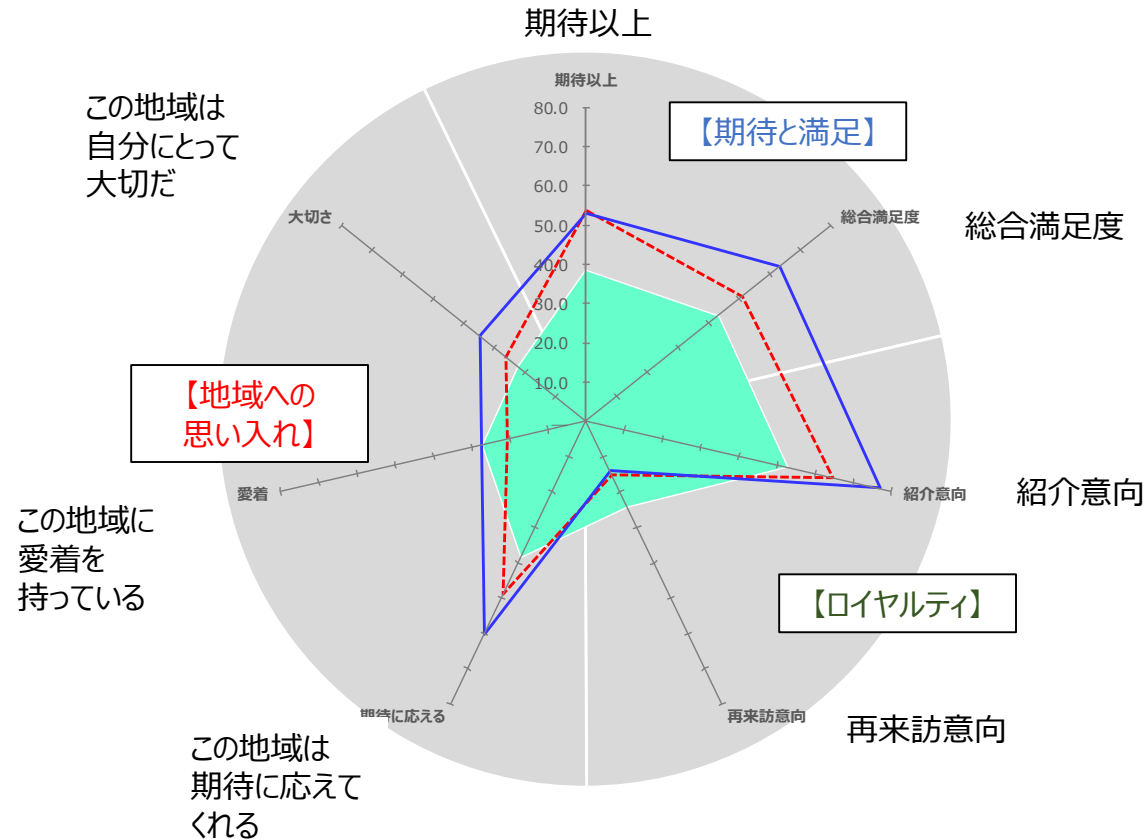




来訪者の満足度 《外国人旅行者》



（出典）2017年度木曽エリア旅行者アンケート調査【国内旅行者】  
 総合指標（「大変そう思う」「大変満足」の割合）全体／各単一回答





＜現状と課題＞

- ・木曽地域は豊かな自然や歴史、「日本遺産」に認定された文化遺産など豊富な観光資源に恵まれています。
- ・大都市(中京)圏からのアクセスも良好です。
- ・観光客の入り込みは、平成6年をピークに低落傾向にありましたが、さらに平成26年の御嶽山噴火災害で大きく落ち込み、災害前の水準まで戻っていません。

災害からの観光復興

木曽らしい観光地域づくり

＜取組の内容＞

- 木曽観光復興対策協議会の活動など、災害からの観光復興を支援・推進します。
- 「日本遺産」を活かして、世界に通用する「木曽ブランド」を再構築を進め、国内外への魅力の発信を支援します。
- 国道19号やJR沿線、木曽川沿いなどの「眺望景観」の整備を進めます。
- 地域DMOを支援し、観光人材を育成します。
- 木曽の観光地を組み合わせ、滞在型観光を推進します。
- 中山道・木曽路の整備と発信、「宿場」の活用を推進します。
- 「すんき」など木曽ならではの食を活かした地域ブランディング、地消地産を推進します。

達成目標

指標名	現状	目標	備考
観光客1人当たりの消費額単価 来訪者満足度調査(長野県観光機構調)	18,874円 (2016年度)	20,000円 (2022年度)	木曽地域内で観光旅行者が支出した宿泊費、交通費、飲食費等の1人当たり平均支出額 [飲食・買物等各1コインずつ(計1,000円)の増加を目標に設定]
観光地延利用者数 (観光部調)	221万人 (2016年)	290万人 (2022年)	管内観光地を訪れた日帰り客、宿泊客の延人数 [御嶽山噴火前(H25)への回復を目標に設定]
外国人延べ宿泊者数 観光地利用者統計(観光部調)	17,973人泊 (2016年)	30,000人泊 (2022年)	木曽地域内の旅館やホテルに宿泊した外国人の延べ人数 [大桑村以北のハイカー宿泊数について現状の3倍増加を目標に設定]

近年、木曽地域では、幹線道路や鉄道、木曽川等河川の沿線で樹木の成長によって、美しい自然の眺望や歴史的な景観が妨げられている個所が増えていることが課題となっています。

美しい木曽路の眺望景観を守り磨いていくため、市町村、国・県機関、景観形成団体等が地域全体で共有できる眺望景観整備の基本方針を定め、地域ぐるみで取組を推進することを宣言します。

寝覚ノ床  
(上松町)



木曽川  
(木祖村)

御嶽山  
(木曽町)



読書発電所  
(南木曽町)

## — 木曽路の眺望景観整備基本方針 —

### 1 めざす姿

「山・川・街道の眺めが美しい木曽路」

### 2 整備の方針

木曾に暮らす人の視点、自動車や鉄道、歩き旅で木曾を訪れる人の視点から見る木曽路の眺望景観を以下の方針で整備する。

- (1) ビューポイントづくり
- (2) 河川景観の整備
- (3) 沿道の森林景観整備
- (4) 沿道の植栽・環境美化
- (5) 公共サイン・その他の整備

### 3 連携・協働による取組の推進

- 整備方針に基づき各実施主体が積極的に事業化に努める。
- 木曽地域振興構想、県総合5か年計画木曽地域編等広域的な計画に木曽路の眺望景観整備を位置付ける。
- 花木の植栽等は、維持管理する団体を明確化したうえで整備するなど、住民と行政の協働により整備後の維持管理を行う。
- 良好な眺望景観づくりへの住民の意識醸成、理解促進を図る。
- 鉄道会社や電力会社など木曽路の眺望景観形成に関連の強い民間企業や団体の参画・協力を得て事業を推進する。
- 支障木伐採等の事業実施にあたっては、実施主体、道路・河川等の管理者、地権者等が相互に連携協力する。

## H30 地域振興推進費

事業名	事業概要
木曽路眺望・景観整備事業	眺望・景観基本方針の啓発
「歩ける中山道」整備事業	(1)公式インスタグラムの運用 (2)フォトコンテストの開催 (3)ウォーキングイベントの開催
県自然環境保全地域等 標識板設置事業	県自然環境保全地域等への 標識板設置

## H30 市町村の広域連携推進事業交付金

事業名	事業概要	実施主体
眺望景観整備 事業	「木曽路の眺望景観整備基本方針」 に基づき実施する、地域連携による支 障木伐採等の眺望景観整備	6 町村

## H30 地域発元気づくり支援金（一次申請ベース：抜粋）

事業名	事業概要	実施主体
木祖村景観形 成推進事業	鳥居峠、しらかば平別荘地周辺及び 大原地区の支障木伐採	木祖村
道路端草刈機 による景観整備 事業	トラクターを購入し、地域協議会のボ ランティアスタッフが開田地区の道路 沿いの景観整備を実施	木曽町
東山公園環境 整備事業	南木曽町三留野地区にある東山公 園の支障木伐採	三留野地域 振興協議会
農業遺産 久保洞水路橋 魅力発信事業	明治42年築造の石造りアーチ橋で、 県の農業遺産になっている久保洞水 路橋について専門家による調査を行 い、観光コンテンツとして活用	南木曽町

## H30 県事業（木曽建設事務所）

事業名	事業概要
地域戦略推進型公共事業	「木曽路の眺望景観整備基本方針」 に基づく木曽川沿いの眺望景観整備





## <現状と課題>

- ・御嶽山を訪れる観光客・登山者に対する安全性の向上が課題となっています。
- ・木曽地域は土砂災害の危険性が高いため、地域全体での防災・減災対策が必要です。  
(ハード・ソフト両面)

木曽地域における主な災害の状況  
(災害救助法適用災害)

昭和28(1953) 7月	豪雨災害 (死者2名、行方不明3名)
昭和34(1959) 9月	伊勢湾台風(台風19号)
昭和41(1966) 6月	南木曽町集中豪雨 (被害12億円余)
昭和58(1983) 9月	台風10号による豪雨 (総被害額192億円余)
昭和59(1984) 9月	長野県西部地震 (玉滝村 死者29名)
平成26(2014) 7月	南木曽町梨子沢土石流 (死者1名)
平成26(2014) 9月	御嶽山噴火 (死者58名、行方不明5名)



「御嶽山」  
安全対策  
の充実

地域の  
強靱化

## <取組の内容>

- 御嶽山を安心して登れる山とするため、関係機関が連携し、安全対策を着実に進めます。
  - ・登山道・避難施設整備、携帯電話不感地域の解消
  - ・「御嶽山火山マイスター」の養成と火山防災知識の普及啓発
  - ・関係町村による「御嶽山ビジターセンター(仮称)」の設置等支援
  - ・関係機関との情報共有・連携強化、防災訓練の充実

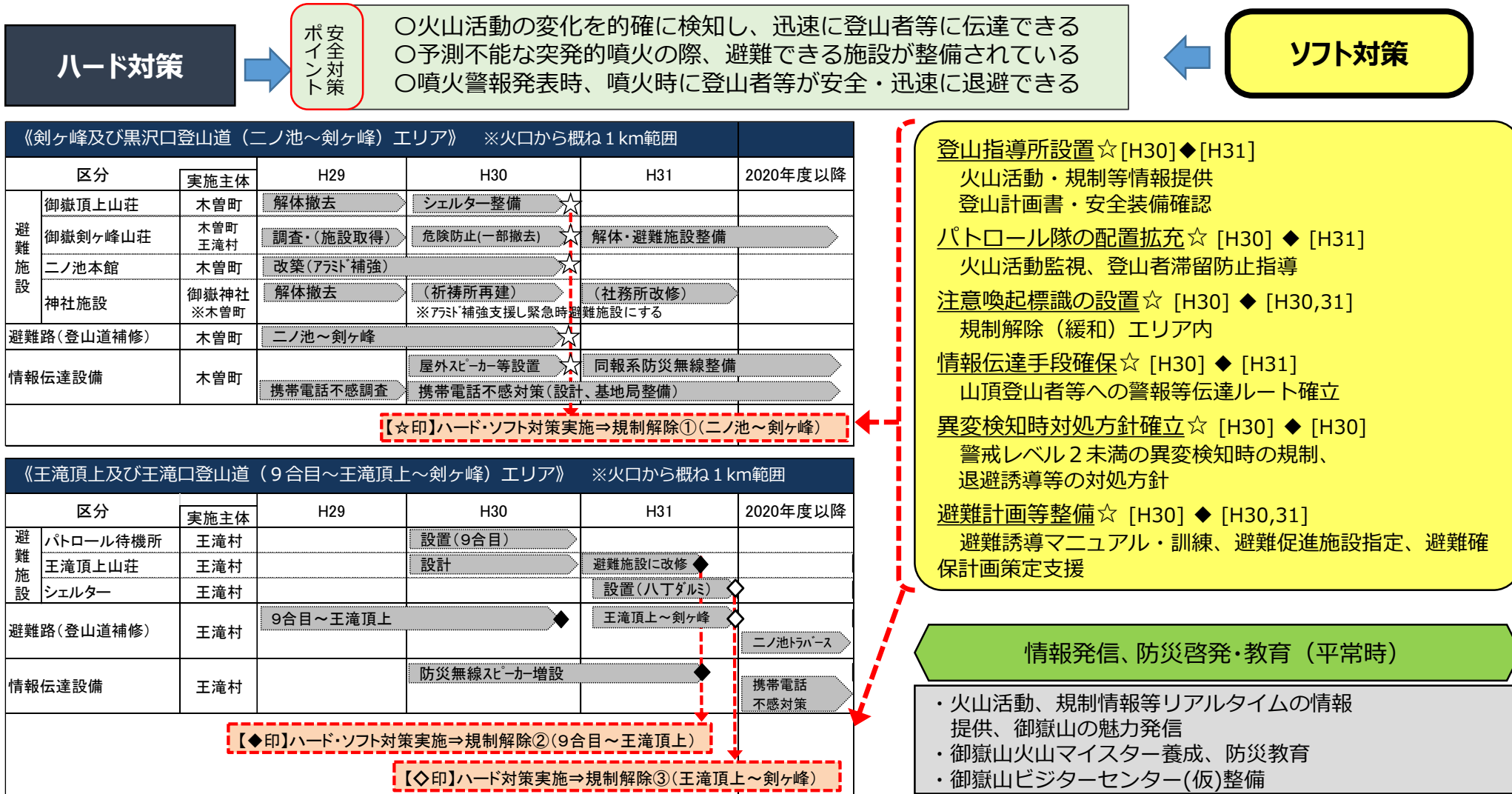
- 集中豪雨や地震に備え、ハード・ソフト両面で防災対策を推進します。  
(ハード) 砂防等施設の整備、住宅・建築物の耐震化 など  
(ソフト) 災害時支え合いマップの作成支援、防災訓練 など
- 岐阜県とも連携し、木曽川右岸道路の整備を推進します。

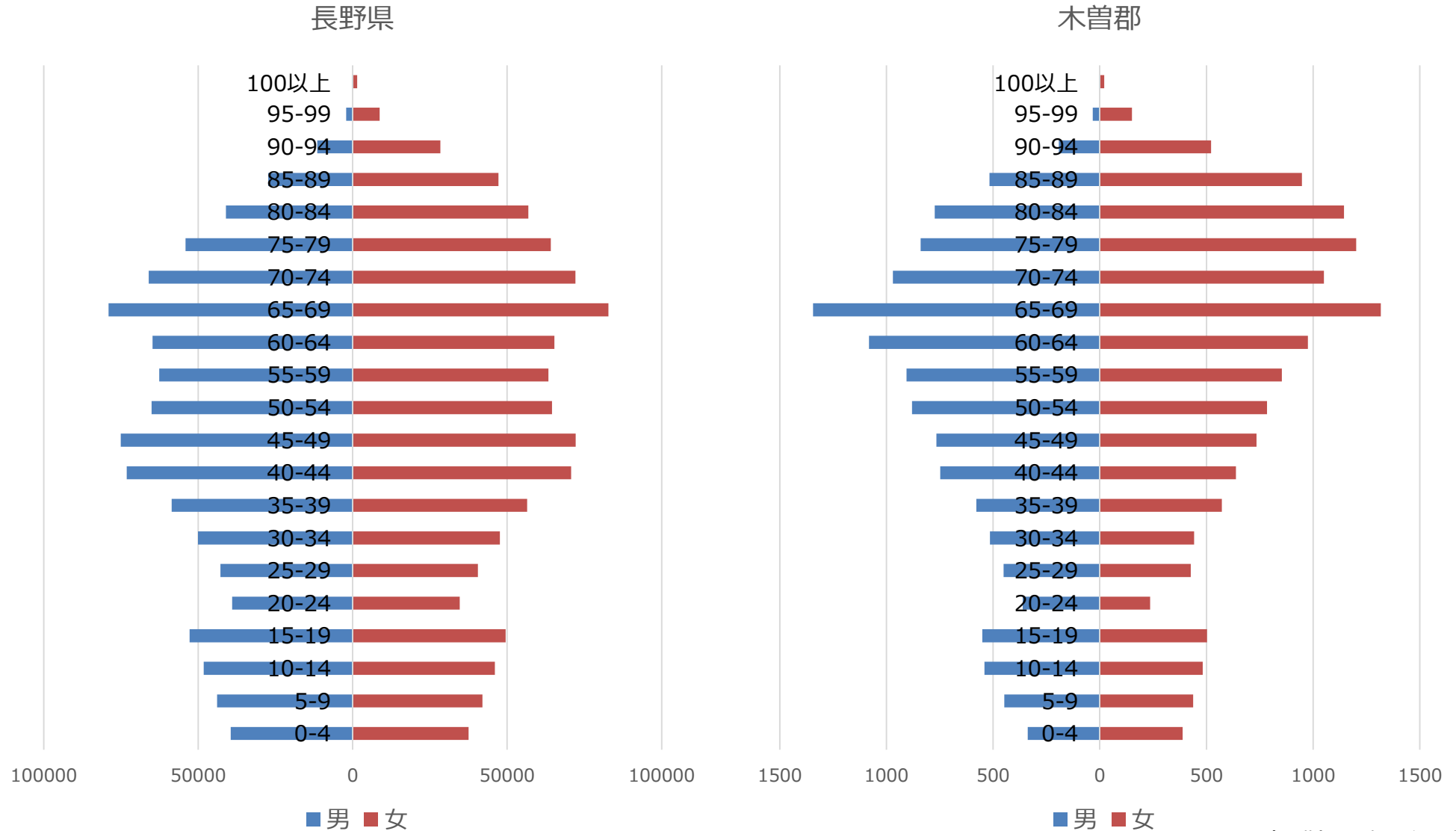
達成  
目標

指標名	現状	目標	備考
御嶽山噴火警戒レベルの認知度 (木曽地域振興局調)	— (2016年)	100% (2022年)	御嶽山噴火警戒レベルを認識している登山者の割合 [情報提供の充実等を踏まえて設定]
災害時住民支え合いマップの作成済み地区数 (健康福祉部調)	157地区 (2016年度)	175地区 (2022年度)	木曽圏域内における災害時住民支え合いマップ作成 済み地区数<全地区数: 292> [年間3地区の作成を目標に設定]

《基本方針》

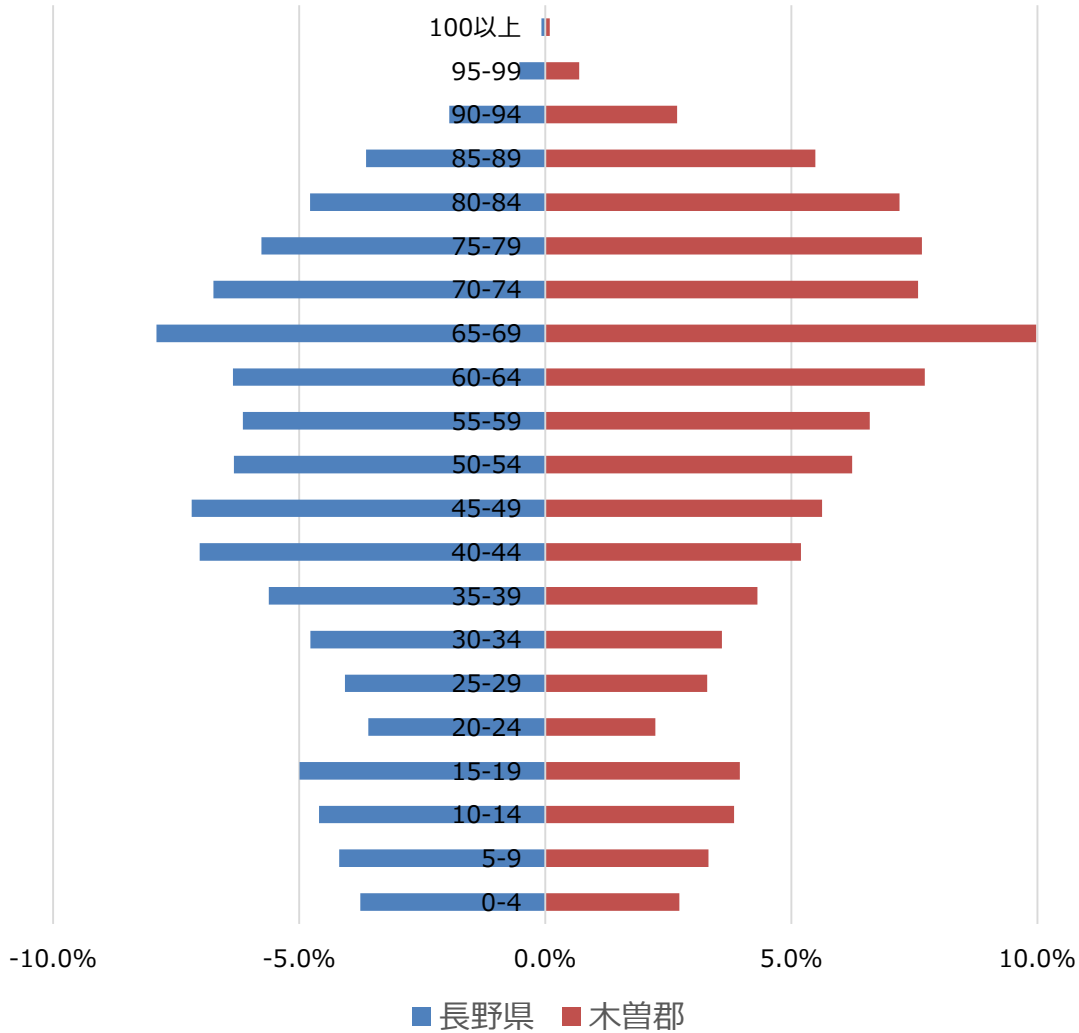
- ◎ハード・ソフト両面の安全対策を実施し、平成26年の噴火災害時よりも安全性を向上させる。
- ◎必要な安全対策が整った範囲から規制を解除（緩和）する。
- ◎火山活動に関する正確な情報発信・伝達を行う。



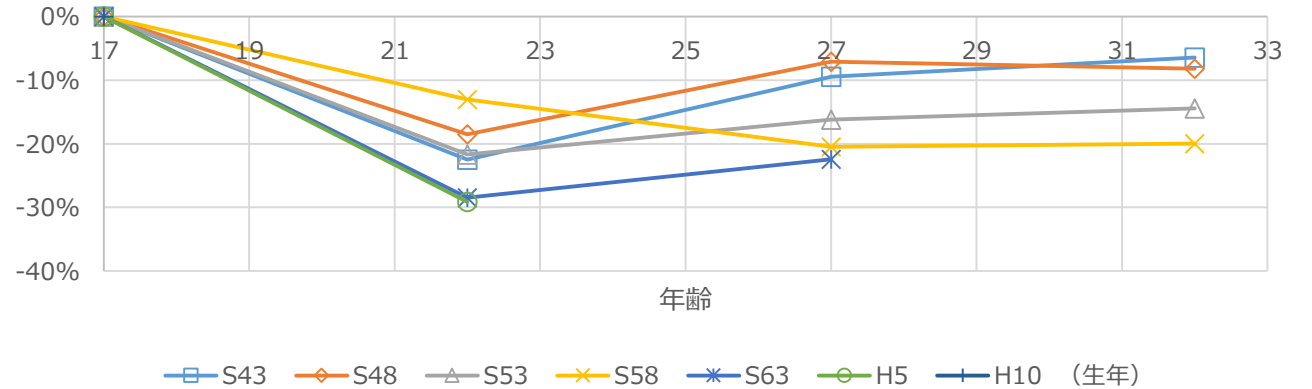


(出典) 平成27年国勢調査  
人口等基本集計 (総務省統計局)

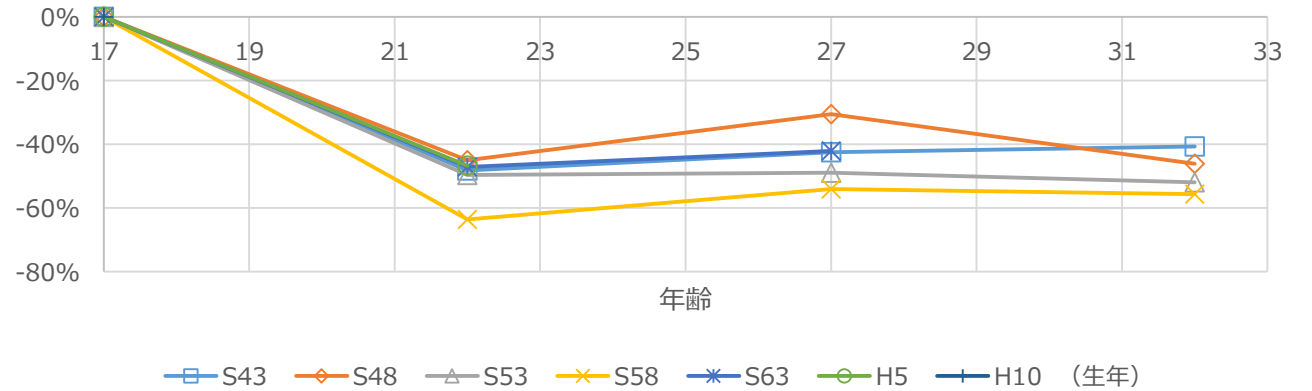
人口ピラミッド（長野県・木曽郡の比較）



人口推移（長野県）



人口推移（木曽郡）



(出典) 平成27年国勢調査  
人口等基本集計（総務省統計局）





<現状と課題>

- ・木曽地域は県内で最も人口減少が著しく、特に若者の多くが進学や就職を機に地域外へ流出し、地域活力の維持、産業発展に必要な人材の不足が懸念されます。
- ・多様な働く場の確保、地元企業と人材のマッチングなどが課題です。
- ・移住・定住者のニーズに合った就労支援や住居の提供などが求められます。
- ・木曽川下流域である中京圏との上下流交流(イベント、森林整備支援等)が盛んに行われています。

<取組の内容>

地元企業と  
人材の  
マッチング

起業・就業  
支援

移住・交流  
促進

若者定住・  
I・Uターン  
促進

- 木曽の企業が求める人材像と学生・生徒が求める企業像、双方向の情報発信を木曽全体で進めます。
- 学生インターンシップの受け入れを推進します。
- 起業・就業希望者に対し、情報面・資金面で総合的かつきめ細かに支援します。
- 関係機関と連携し、農業後継者・担い手の確保・育成、伝統工芸関係の起業・就業を支援します。
- 木曽への移住を地域全体で促進します。
- 木曽川上下流交流、隣接地域との交流拡大を促進します。
- 木曽の暮らしや地元企業の魅力を地域全体で情報発信します。
- 地元に着住しようとする若者の希望の実現を支援します。

達成  
目標

指標名	現状	目標	備考
移住者数 (企画振興部調)	69人 (2016年度)	94人 (2022年度)	新規学卒Uターン就職者や数年内の転出予定者等を除く県外からの転入者 [県全体の目標をもとに設定]
新規就農者数(累計) (木曽地域振興局調)	8人 (2016年度)	10人 (2022年度)	木曽地域における45歳未満の新規就農者数(5か年の累計数) [年間2名程度の新規就農を目標に設定]



## <現状と課題>

- ・二次医療救急など地域で唯一高度医療を提供する「県立木曽病院」では、医師・看護師が不足しています。
- ・児童・生徒の減少に伴い、学級減などの課題に直面しています。
- ・高齢化の進行に伴い、通院などの生活の足としての公共交通の必要性が高まっています。
- ・安全・安心な暮らしを支える公共的なサービスを持続的に提供できるようにすることが必要です。

## <取組の内容>

25

### 医療

- 信州大学、木曽看護専門学校等と連携し、医師・看護師の確保に努めます。
- 病院への通院手段や診療所の確保を支援します。

### 福祉

- 医療機関・福祉施設等と連携した地域包括ケアシステムの整備に向けて、情報提供等の支援を行います。

### 教育

- 木曽地域全体の高校の将来像を検討し、生徒の希望や地域の期待に即した教育の充実を図ります。

### 道路

- 国道19号、256号及び361号の交通安全対策と、木曽川右岸道路の着実な整備を推進します。

### 交通

- 地域公共バスの広域化、デマンドタクシーの活用拡大について検討します。
- 近隣のリニア駅への交通アクセスの改善を促進します。

## 達成目標

指標名	現状	目標	備考
特定健診受診率 (長野県国民健康保険団体連合会調)	54.7% (2015年度)	58.7% (2021年度)	特定健康診査対象者数に占める特定健康診査受診者数の割合 (市町村国保分) [県全体の目標をもとに設定]
木曽川右岸道路(南部)の整備率 (木曽建設事務所調)	50% (2016年度)	60% (2022年度)	木曽川右岸道路(南部)の計画延長のうち、整備した延長割合 [整備スケジュールをもとに設定]





## しあわせ信州創造プラン2.0

地域重点政策  
【木曾地域計画】

木曾地域振興局 企画振興課

〒397-8550 木曾郡木曾町福島2757-1 木曾合同庁舎  
TEL:0264-24-2212 (直通)